

安全データシート (safety data sheet)

1. 製品および会社情報

製品の名称	オイルロックス
会社名	谷口商会株式会社
住所	岡山県岡山市南区藤田 338-31
電話番号	086-296-5906
FAX 番号	086-296-6507
メールアドレス	info@taniguti.co.jp
推奨用途	乳化油等の凝集除去

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	該当しない
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1 発がん性 区分1A 特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分1（呼吸器、免疫系、腎臓）
環境に対する有害性	分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H318 重篤な眼の損傷 H350 発がんのおそれ H372 長期または反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
粉塵を吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。(P270)
防塵マスク、保護眼鏡、保護手袋を着用すること。(P280)

【応急措置】

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診察、手当を受けること。(P308+P313)
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。(P314)

【廃棄】

内容物や容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事の許可を
受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。(P501)

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物			
化学名又は一般名	シラス混合物			
主な組成物質	CAS 番号	含有率(%)	安衛法政令番号	化審法整理番号
非晶質シリカ	60676-86-0	35~50	-	-
結晶質シリカ (石英)	14808-60-7	0.3~1.5	165-2	1-548
硫酸アルミニウム	10043-01-3	10~25	-	1-25
炭酸カルシウム	471-34-1	10~25	-	1-122
炭酸ナトリウム	497-19-8	5~20	-	1-164
炭酸カリウム	584-08-7	0~2	-	1-153
酸化鉄	1309-37-1	0~2	192	1-357

不純物及び安定化添加物

本品における成分は便宜上、各物質の代表的な表記としているが実際には混合物であり、硫酸塩、水酸化物塩、ケイ酸塩、アルミン酸塩など種々の分類できない化合物で構成される。

4. 応急措置

吸引した場合	粉塵を多量に吸入した時は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸に異常がある場合には、直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	水及び石鹼で洗浄する。
眼に入った場合	粉塵が眼に入った場合は、直ちに清浄な水又は洗眼水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。異常が残る場合は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	水で口の中をよく洗浄する。粉末を多量に飲み込んだときは、直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	本品自体は燃焼しない。吸着した液体が引火した場合は、泡消火剤・粉末消火剤・炭酸ガス・乾燥砂を使用する。
使ってはいけない消火剤	データなし
特有の消火方法	特になし
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	こぼれた物質を全部容器内に掃き入れる。適切な保護具を着用し、粉塵の眼、皮膚への接触、吸入を避ける。
環境に対する注意事項	特になし
封じ込め及び浄化の方法及び機材	真空掃除機で吸引する等で空容器等に回収する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	粉塵を吸入したり、眼、皮膚および衣類に触れないよう注意し、防塵マスク、防塵眼鏡、保護手袋、適切な作業衣を着用する。 使用後は容器を密閉する。取り扱った後は、手、顔を洗浄する。
保管	吸湿すると失活するため湿度を避け、また直射日光を避け、屋内の室温で保管し、使用後は密閉して貯蔵する。

8. 暴露防止および保護措置

管理濃度 (労働安全衛生基法第 65 条の規定に基づく作業環境評価基準)

$$\text{粉塵の管理濃度(mg/m}^3\text{)} \quad E = 3.0 / (1.19 \times Q + 1)$$

尚 Q: 当該粉塵中の遊離けい酸の含有率(%)

当社にて上記の作業環境測定基準 (昭和 51 年労働省告示 46 号) に規定された X 線回折法に基づき、本品に含まれる遊離けい酸含有率を測定したところ 0.7%であった。この数値に基いて 上記式から本品の粉塵の管理濃度を算出すると 1.64 mg/m³となる。

許容濃度 (日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 2016 年度)

第一種粉塵	総粉塵	2 mg/m ³
	吸入性粉塵	0.5 mg/m ³
吸入性結晶質シリカ		0.03 mg/m ³

設備対策	粉塵則に従い局部排気装置、除塵器を設置する。
呼吸器の保護具	防塵マスクを着用する。 (特別個人用保護具: P2 有害粒子用フィルター付マスク)
手の保護具	保護手袋を着用する。
目の保護具	保護眼鏡を着用する。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態	淡灰色 粉末
pH	0.1%液 中性 (約 7.2)
密度	0.95 g/cm ³ (かさ密度)
溶媒に対する溶解性	水、有機溶剤に不溶。水中でフロックを形成し凝集沈殿する。

10. 安定性および反応性

安定性	通常の状態安定である。
危険有害反応可能性	特になし
避けるべき条件	特になし
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	特になし

11. 有害性情報

急性毒性

経口	分類できない
経皮	分類できない
吸入: ガス	分類対象外
吸入: 蒸気	分類対象外
吸入: 粉塵及びミスト	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	

区分 1

炭酸ナトリウムについて、ウサギを用いた試験において、「刺激性なし (not irritating)」～「強い刺激性 (highly irritating)」と相反する結果 (SIDS (access on July 2008)が出ている。その中の一つの試験で、非洗浄眼の場合

全例に角膜、虹彩、結膜（発赤、浮腫）に症状が発生し、14日の観察期間終了時も症状が残り、ドレイズの最大スコア平均（MMTS）が105と報告されている。また、別の試験の非洗浄眼では、ばく露後1時間で角膜混濁を生じ重度の影響が7日まで持続し、ドレイズの平均評点が角膜で3.8、虹彩で2であり、一部の動物で角膜パンヌスおよび円錐角膜を起こしていた。以上の結果は重篤で不可逆的眼損傷性を示しており、区分1に該当する。

呼吸器感作性

分類できない

皮膚感作性

分類できない

生殖細胞変異原性

区分外

発がん性

区分1A

多くの疫学研究結果において、石英を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した（IARC 100C（2012）、SIDS（2013））。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている（IARC 100C（2012））。

一方、実験動物では雌雄ラットに本物質（空気力学的中央粒子径（MMAD）：1.3 μm）を1 mg/m³で2年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質（MMAD：2.24 μm）を12 mg/m³で83週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質（MMAD：1.8 μm）を6.1、30.6 mg/m³で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた（IARC 100c（2012））。

以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARCは本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997年に「グループ1」に分類し、2012年の再評価でも分類結果を変更していない（IARC 68（1997）、IARC 100C（2012））。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第1群」に（産衛学会勧告（2015））、ACGIHが2004年以降「A2」に（ACGIH（7th, 2006））、NTPが結晶質シリカ（吸入性粒子径）に対して、「K」に分類している（NTP RoC（13th, 2014））。よって、本項は区分1Aとした。

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器毒性(単回暴露)

分類できない

特定標的臓器毒性(反復暴露)

区分1（呼吸器、免疫系、腎臓）

ヒトにおいて、多くの疫学研究において、結晶質シリカの職業ばく露と呼吸器への影響（珪肺症、肺がん、肺結核）が確認されている。このほか、自己免疫疾患（強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎）、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている（SIDS（2013）、CICAD 24（2000）、DFGOT vol. 14（2000））。この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている（SIDS（2013））。実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている（SIDS（2013））。したがって、区分1（呼吸器、免疫系、腎臓）とした。

吸引性呼吸器有害性 分類できない

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性	短期(急性)	データなし
水生環境有害性	長期(慢性)	データなし
その他		データなし

1 3. 廃棄上の注意

事業者が油等の液体を吸着させた使用後の本品を廃棄する場合、都道府県の許可を得た産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。(使用後の本品がいかなる産業廃棄物に分類されるかは、当該事務所の所在地である都道府県ごとに解釈されている。)

1 4. 輸送上の注意

国連分類	該当しない(非危険物)
国連番号	—
国際規制	

UN No.	—
Proper Shipping Name	—
Class	—
Packing Group	—

国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
特別の安全対策	輸送に関しては、直射日光を避け、水濡れ、荷崩れがないよう丁寧に取り扱う。

1 5. 適用法令

消防法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.165-2(結晶質シリカ(石英)), No.192(酸化鉄)
船舶安全法	非危険物
航空法	非危険物
水質汚濁防止法	非該当
大気汚染防止法	非該当

1 6. その他の情報

引用文献等	JIS Z 7253 (2019) NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE-CHRIP 経済産業省 事業者向け GHS 分類ガイダンス
-------	--